

船舶事故等調査報告書

平成22年11月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第296号	
事故等種類	転覆	
発生日時	平成21年12月13日（日） 01時05分ごろ	
発生場所	愛知県名古屋市名古屋港高潮防波堤中央提西灯台から真方位072° 2.9海里付近 (概位 北緯35° 01.5′ 東経136° 51.4′)	
事故等調査の経過	平成21年12月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	モーターボート マツヤ丸、5トン未満	
船舶番号、船舶所有者等	240-22884愛知、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	右舷外板にき裂、船外機濡損、操舵装置破損、バッテリー濡損	
事故等の経過	<p>本船は、船長が友人1人とともに乗船し、愛知県東海市所在の新日本製鉄名古屋製鉄所構内の本事故発生場所北方の棧橋式岸壁端から同岸壁下の水域（以下「暗渠」という。）に入り込んで魚釣りを開始した。</p> <p>本船は、上げ潮により、暗渠の高さが低くなったため、暗渠の高くなっている場所を探しながら暗渠の中を時速約10km/hで航行していたところ、暗渠の側壁に設置された排水口からの放出流を左舷側に受けて圧流され、付近の岸壁支柱に右舷外板が押し付けられ、平成21年12月13日01時05分ごろ、左舷側から転覆した。</p> <p>乗船者の2人は、転覆した本船の船底に這い上がって漂流中、海上保安庁の船艇に救助された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 4</p> <p>海象：波高 約0.5m、海水温度 約11℃、潮汐 上げ潮の中央期</p>	
その他の事項	<p>船長と友人は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、過去の航行経験から、暗渠の側壁に排水口があることを知っていたが、その正確な位置までは知らなかった。</p> <p>本船は、オープンデッキモーターボートで、長さは約4m、幅は約1.6m、深さは約0.5m、船質はFRPであった。</p> <p>本船は、航海灯は消灯していたが、バッテリーを電源とする作業灯を点灯していた。</p> <p>船長は、防水ケースに収納した携帯電話を所持していた。</p> <p>暗渠で魚釣りを開始したときの水面と岸壁下面の距離は、約1.2mで、13日01時00分ごろの同距離は約1mであった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	なし
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、名古屋港において、暗渠を航行中、排

	水口からの放出流を左舷側に受け、付近の岸壁支柱に右舷外板が押し付けられ、左舷側から転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、名古屋港において、暗渠を航行中、排出口からの放出流を左舷側に受けたため、付近の岸壁支柱に右舷外板が押し付けられ、左舷側から転覆したことにより発生したものと考えられる。